

令和 5 年度

事業者番号	0218	事業所番号	021801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	荒川水循環センター		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	笹目五丁目37番地の14	
産業分類名(中分類)	36 水道業		
分類番号(中分類)	36		
事業活動の概要	事業内容	主な事業内容 : 荒川左岸南部流域下水道の下水処理 令和4年度流入水量 : 230,291(千m ³ /年)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量から、令和2~6年度までの排出量を平均20%以上削減する。(必要に応じて、その他ガス削減量、排出量取引を活用する)				
	その他ガス	下水汚泥の高温焼却を実施し、平成17~19年度を基準年度として、令和2~6年度において、年間の一酸化二窒素の排出量を約22,000[t-CO ₂]削減する				
削減目標の概要	エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	235,856	t-CO ₂	事業所区分 第2区分	
		削減目標量(計画期間合計)	58,964	t-CO ₂		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	25,938	25,574	25,991		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂	50,927	50,211	51,353		
前年度比 (%)	—	-1.4	2.3		
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メタン	5,857	5,734	5,467	
	一酸化二窒素	42,989	28,299	30,658	
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化いおう				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	99,773	84,244	87,478		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂ 排出量原単位	0.2043	0.2072	0.2230		
前年度比 (%)	—	1.4	7.6		
活動規模の指標	単位				
高級処理水量	1000m ³ /年	249,238.00	242,336.09	230,290.69	

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>令和元年度と比較して、令和2年度は排出量が増加した。 令和2年度から1～5系の段階的の高度処理を開始したので、ブローの稼働が増え電力使用量が増加した。</p>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>・令和2年度と比較して、令和3年度の処理水量が減少したため、電気使用量が減少した。 ・その一方で、自燃が可能だった2号汚泥焼却炉が休止し、自燃ができない3号・4号炉に振り分けたことにより、都市ガス使用量が増加した。 ・それらにより、総体として、エネルギー起源CO₂排出量が減少した。</p>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>・令和3年度と比較して、令和4年度の処理水量が減少したが、電気使用量は増加した ・焼却炉の稼働は3年度と同様だが、老朽化による故障で汚泥の自燃率が減少、都市ガスの使用量が増加した。 ・それらにより、総体として、エネルギー起源CO₂排出量が増加した。</p>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	58,964	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	58,964	58,964	58,964	58,964	58,964	294,820	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							235,856
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							58,964
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	50,927	50,211	51,353			152,491	
	削減率 (F = (A - E) / A)	13.63%	14.84%	12.91%			—	
	排出削減量 (G = A - E)	8,037	8,753	7,611			24,401	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用 に関する措置	2号汚泥焼却炉 廃熱発電機能付き焼却 炉の導入	R5		
2	490100	その他	49_排出量取引	排出量取引を行い目標達成に努める。 (その他ガス削減量の活用 含む)	R7以降		
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄